

住民の声を聞かない政治 No!

野党+市民の力で
新しい政治を

住み続けられる左京のまちづくりへ

新年度の政府予算案で、福祉予算が大幅に抑制される一方で、軍事費や沖縄への基地押し付け予算の増額、リニア新幹線に1.5兆円(2年で計3兆円)財政投融资など、大型公共事業の大盤振る舞いがすすめられようとしています。こうしたアベノミクス型の予算編成が、京都のまち・住民の暮らしにも重大な悪影響を与えています。私たちは「住民が主役の政治」「住み続けられる左京のまちづくり」を実現するために、みなさんと手を携えて頑張ります。

おかしすぎる税金のむだづかい

撤回されたはずの「京都市内高速道路計画」が、「一般道路」計画として復活が狙われています。堀川通地下トンネルバイパス計画であり、事業費は高速道路計画時1200億円と見込まれていたものです。巨額の地元負担と環境破壊が懸念される北陸新幹線を京都市内に走らせる計画も進められようとしています。この5年間で鴨川などに架かる橋の耐震化予算の総額が150億円だった事実から考えてもあまりにもひどいむだづかいです。日本共産党は、自民党アベノミクス型の無駄遣いの政治から、防災や住民の暮らしを大事にする政治への転換を提案します。

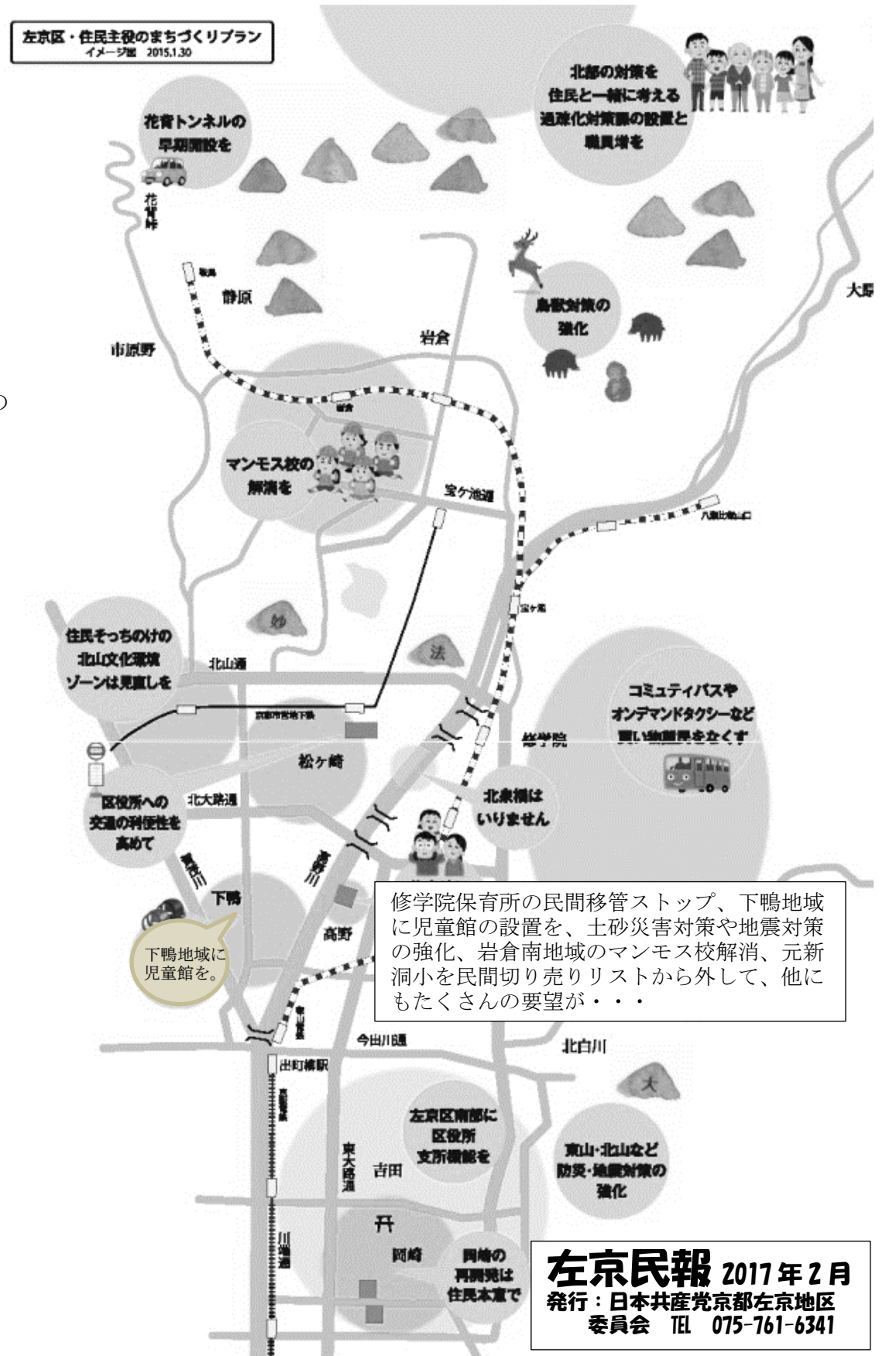
「京都らしさ」こわす開発ラッシュ・・・

京都市は「京都市美術館」の名前と優先利用権を特定企業に売却、世界遺産・下鴨神社社の森への8棟ものマンション建設を許可(JR西日本不動産開発)・風致条例違反を追認するなど、京都らしさを次々と手放す動きを強めています。

京都らしさを大切に、住民が住みやすく居心地の良いまちづくりをすすめてこそ、災害にも強く、観光客が繰り返し訪れたいと思うまちになっていくのではないのでしょうか。

不便な区役所解消こそ必要ー 左京南部の支所設置と左京区役所への公共交通の確保を

「こんなことに14億円もの私たちの税金を使うなんておかしい」との住民の反対の声を押し切って工事が着工された北泉通拡幅・架橋問題(詳細は裏面)。不要不急の事業は直ちに中止し、左京南部支所設置、岩倉証明書発行センターの機能強化や区内の主要な生活・医療拠点を結ぶ小型循環バス、介護施設誘致など、左京区民が真に求める事業にこそ使わせましょう。



日本共産党京都左京地区委員会は以上の見解を発表しました。